

## 修士論文要旨

在日異文化友人関係における対人魅力及びソーシャル・スキルに関する研究  
——在日中国人留学生と日本人若者を対象に——The Attraction and Social Skill for Intercultural Friendship in Japan  
— A case study on Chinese University Students and Japanese University Students/Young Adults —

郭 璟群 (Keigun Kaku) 指導：鈴木 晶夫

## 研究目的

本研究では、対人魅力の視点で、在日異文化友人関係における態度やパーソナリティ類似性、及びその特性が対人魅力やソーシャル・スキル獲得、親密度に及ぼす影響を検証し、日本における異文化友人関係の親密化を促進する(妨げる)要因、親密な異文化友人関係を築く・維持するソーシャル・スキルを明らかにすることを目的とする。

## 研究方法

**調査対象：** 中国人留学生78名(男性28名、女性50名、平均年齢24.26歳)、日本人71名(男性40名、女性31名、平均年齢22.06歳)

**調査方法：** 質問紙による調査である。調査表では、まず留学生と日本人にそれぞれ「一番親しい同性の日本人友人」と「一番親しい同性の外国人友人」の一人を思い浮かべるよう教示した。測定尺度は態度、パーソナリティ、対人魅力及びソーシャル・スキルという4つの内容で構成され、被調査者の友人に対する評価(態度、パーソナリティ、対人魅力)及び自己評価(態度、パーソナリティ、ソーシャル・スキル)を測定した。

## 結果と考察

## 1. 態度及びパーソナリティの因子分析：

対象によって、態度とパーソナリティにおける因子分析の結果が異なり、文化的特徴が見られた。

## 2. 類似性の効果：

① 類似性の対人魅力に対する有意な効果が見られた。全体的に中国人留学生の類似性効果が日本人より大きく、留学生は異文化環境にいるためより同類を求める心理に対し、母国にいる日本人は逆に外国人の異なる性質に惹かれることが窺えた。中国人留学生においては、態度類似性はパーソナリティ類似性より対人魅力に対する効果が大きかった。日本人においては、態度もパーソナリティも類似性効果があり見られなかったが、全体の類似性認知の効果が見られた。

② 全体的に類似性は親密度に対する有意な効果があり

見られなかった。

## 3. 態度及びパーソナリティの特性効果：

態度やパーソナリティの特性が対人魅力及びソーシャル・スキル、親密度に影響を及ぼし、文化的特徴が見られた。対人魅力に対しては、態度よりパーソナリティの特性効果が大きかった。ソーシャル・スキルに対しては、留学生においてパーソナリティより態度の特性効果が大きかった。親密度に対しては、中国人留学生はパーソナリティより態度の特性効果が大きく、日本人は態度よりパーソナリティの特性効果が大きかった。

## 4. ソーシャル・スキルの影響：

ソーシャル・スキル、対人魅力及び親密度の間に、有意な正の相関が見られた。中国人留学生は、日本の社会的知識を習得し日本社会のスキルを上手く獲得する方が、より日本人と親密な関係になれるのに対し、日本人は外国人友人に合わせ日本的なやり方を避けようとしている可能性があると考えられた。ソーシャル・スキルの調整は異文化対人関係に影響を与えることが示唆された。また、魅力が高いほど、友人とより親密になれることも示唆された。

よって、本研究では、異文化友人関係における類似性は関係を促進してくれる効果があるが、類似性よりお互いの文化を理解し、社会に適応するパーソナリティやソーシャル・スキルを持つ方が大切であると推定された。

## 今後の課題

最後に、本研究の問題点による今後の課題は、以下の3点である。第1に、類似性効果の原因を検討するに、今後、自己概念などの測定を含めた調査が求められる。また、態度とパーソナリティ以外の類似性調査も必要とされる。第2に、サンプル数を増やし、男女差や特定の国について更なる分析が必要であろう。第3に、異文化友人と同国人友人の付き合いを比較する調査も求められる。